

「母校、いつもきれいに」

真和志中OB会が地域活動

ボランティアで母校周辺の清掃を続ける「真和志中OB会」のメンバー11月9日、那覇市立真和志中学校周辺



「人と人がつながり、地域の子を見守りたい」「困っている人がいたら誰でも手を差し伸べられる地域にしたい」。そんな熱い思いを持つのは、那覇市立真和志中学校の卒業生で構成

する「真和志中OB会」のメンバーだ。地域貢献の一端としてボランティアで母校周辺の清掃活動を始めて1年になる。延べ約400人が関わり、よりよい地域づくりを目指している。

OB会会長を務める43期卒業生の宇根良也さん(41)が昨年、同年代の友人が集まった席で「地域に何かできることはないか」と話したことをきっかけに活動が始まった。33期卒業生から20歳の65期卒業生まで、幅広い年齢層の約50人がメンバーだ。

第1・3日曜日の午前8時30分から活動開始。地域の人から「うちの庭もお願いね」と声が掛かることもあり、地域交流の一役を担っている。

宇根会長は「できる時にできる人がやればいい。人と人とのつながりを大切にしたい」と思いを語る。また、校区内にあった青年会の復活を強く望んでいる45期卒業生の瀬名波政彦さん(39)は「子ども会から青年会、OB会へと世代を介して行事などに参加し、地域を盛り上げたい」と熱く語った。(中川廣江通信員)